

## I. 運営委員会報告

2011年8月15日から8月26日にかけて、メール審議により2011年度学会各賞の受賞候補者について審議し、受賞者を決定した。

2011年9月24日に神戸大学発達科学部において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2010年度収支決算（案）について審議した。
2. 2011年度収支予算（案）について審議した。
3. 東日本大震災に対する植生学会としての対応を社会に発信するために、企画委員会を中心に提言文の準備を進めることとした。また東日本大震災による植生への影響調査を具体的に進める小委員会を原正利氏を中心に企画委員会内に設置することとした。
4. 群集検討ワーキングの答申に基づいて、学会が抱える問題点や学会の将来を検討するため、時限委員会（現会長の任期中）として将来計画委員会を設置し、委員長は吉川正人氏にすることとした。
5. 研究発表賞対象者の増加による選考の煩雑化などに対応するために、対象者を現在の「37歳以下」より「学生及びポスドク」に変更することとした。
6. 情報誌のCiNiiへの公開に伴って生じる著作権委譲の問題に対して、来年度以降、出版される情報誌、要旨集は学会誌同様に著作権が学会にあるという規定を作り、過去の記事は著者からの著作権委譲の手続きを準備することとした。
7. 学会誌の投稿数の減少傾向改善の方策として、編集委員会

が選考する論文賞を新規に制定することとした。

8. 第17回大会（2012年度）の開催地について、2012年10月13日から10月15日に千葉大学で開催することとした。

## II. 編集委員会報告

2011年9月24日に神戸大学発達科学部において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生情報のCiNii公開を前向きに進めることとした。
2. 校閲者の公開頻度を3年に1回から毎年1回に変更することとした。
3. 植生学会誌論文賞を創設することとした。
4. 編集委員会内規の一部改訂（引用文献の範囲）および「植生学会誌の表記に関する細則」の一部改訂（群集名表記方法等）については継続審議とした。

## III. 企画委員会報告

2011年9月24日に神戸大学発達科学部において定例の委員会を開催し、シカ影響調査の結果公表、東日本大震災に対する学会からの提言文、東日本大震災による植生への影響の調査方法について審議した。

## IV. 表彰委員会報告

2011年9月24日に神戸大学発達科学部において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 学会賞候補者推薦数減少の対策を進めることとした。
2. 手続きを簡略化するため、学会賞の推薦状送付先を事務担

別掲1. 植生学会2010年度収支決算

(単位: 円)

収入の部	予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し	5,201,940	5,201,940	0	
会費	3,452,000	2,821,000	631,000	
バックナンバー売り上げ	20,000	47,700	-27,700	
雑収入	500,000	314,888	185,112	
		(20,188)		内訳1: 著作権使用料など
		(294,700)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ
利息	500	118	382	
計	9,174,440	8,385,646	788,794	
支出の部	予 算	決 算	差 異	備 考
植生学会誌刊行費 900,000円×2回	1,800,000	1,306,264*	493,736	*第27巻1号・2号
植生情報刊行費 500,000円×1回	500,000	498,750*	1,250	*第14号
学会事務局経費	900,000	673,447	226,553	
編集事務局経費	100,000	24,826	75,174	
植生情報編集費	40,000	9,400	30,600	
企画委員会経費	400,000	230,458	169,542	
表彰委員会経費	150,000	64,150	85,850	
大会補助費	231,977	231,977*	0	*第15回大会
予備費	5,052,463	247,910	4,804,553	
		(97,550)		内訳1: 群集検討WG
		(150,360)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ
計	9,174,440	3,287,182	5,887,258	
収支差額（繰り越し）	0	5,098,464	-5,098,464	

当から企画委員長に変更することとした。

## V. 2011 年度総会報告

2011 年 9 月 25 日に神戸大学発達科学部（兵庫県神戸市灘区）において 2011 年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

### A. 報告事項

#### 1. 学会事務局

2011 年 9 月 7 日現在の会員数（正会員数 570 名、団体会員 11 団体、賛助会員 1 団体）が報告された。

#### 2. 各種委員会

前記 I-IV. の運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

### B. 承認事項

- 2010 年度収支決算（別掲 1）を承認した。
- 2011 年度収支予算（別掲 2）を承認した。

### C. その他

第 17 回大会開催地となる千葉大学の沖津進氏より、多数会員の参加が要請された。

## VI. 学会賞

2011 年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり。授与式は 2011 年 9 月 25 日に行われ、各賞受賞者に表彰状と記念品が福嶋会長から贈呈された。

植生学会賞	下田路子（富士常葉大学社会環境学部）
植生学会功労賞	武田義明（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）
植生学会奨励賞	大橋春香（東京農工大学農学部附属フロンティア農学教育研究センター）
植生学会研究発表賞	
口頭発表賞	大橋春香（東京農工大学農学部附属フロンティア農学教育研究センター）
	栃木県佐野市における耕作放棄地植生の空間分布と発生

要因～イノシシによる農業被害との関係～。

ポスター発表賞 山ノ内崇志（高知大学大学院総合人間自然科学研究科）

小河川において水生植物群落はどのような動態を示すか？

## VII. 植生学会第 16 回大会報告

植生学会第 16 回大会（大会会長：武田義明、実行委員長：藤原道郎）が、2011 年 9 月 24 日から 9 月 26 日にかけて、神戸大学発達科学部において開催された（下記日程）。一般講演では口頭 32 題、ポスター 34 題の発表が行われた。参加者は予約申込者 144 名、当日参会者 35 名の計 179 名であった。

9 月 24 日 各種委員会、運営委員会

9 月 25 日 一般講演（口頭発表・ポスター発表）、学会賞授与式、総会、懇親会

9 月 26 日 エクスカーション（A コース：淡路島海岸植生、B コース：砥峰荒原のススキ草原とシカの食害）

一般講演は以下のとおりであった。

（口頭発表）

- A01 釧路湿原低層湿原植生にエゾシカが与えている影響。村松弘規（北大・院・農）・富士田裕子（北大・FSC 植物園）・高田雅之（北海道総研・環境科学研究センター）
- A02 北海道及び国後島における遺存種ムセンシゲの生育環境と植物地理。加藤ゆき恵・富士田裕子（北大・FSC・植物園）
- A03 北アルプス後立山連峰における雪田型植生の組成と立地。石田祐子・坂本拓也・佐々木秀義・武生雅明・中村幸人（東京農大・地域環境）
- A04 乾燥した崖地に生育するミツデウラボシの発生初期段階の定着及び生育における蘚苔類群落の役割。水野大樹（千葉大・院・園）・竹崎大悟（千葉大・園）・百原新・沖津進（千葉大・院・園）
- A05 渡良瀬川流域におけるネコノメソウ属 5 種の分布特性。

別掲 2. 植生学会 2011 年度収支予算

（単位：円）

収入の部		2011 年度	2010 年度	差 異	備 考
前期繰り越し		5,098,464	5,201,940	-103,476	
会費		3,392,000*	3,452,000	-60,000	*一般 496, 学生 74, 団体 11, 賛助 1
バックナンバー売り上げ		20,000	20,000	0	
雑収入		500,000	500,000	0	
利息		500	500	0	
計		9,010,964	9,174,440	-163,476	
支出の部		2011 年度	2010 年度	差 異	備 考
植生学会誌刊行費	900,000 円×2 回	1,800,000*	1,800,000	0	*第 28 巻 1 号・2 号
植生情報刊行費	500,000 円×1 回	500,000*	500,000	0	*第 15 号
学会事務局経費		700,000	900,000	-200,000	
編集事務局経費		100,000	100,000	0	
植生情報編集費		40,000	40,000	0	
企画委員会経費		400,000	400,000	0	
表彰委員会経費		150,000	150,000	0	
大会補助費		350,000*	231,977	118,023	*第 16 回大会
予備費		4,970,964	5,052,463	-81,499	
計		9,010,964	9,174,440	-163,476	

- 深町篤子・星野義延 (東京農工大学大学院)
- A06 外来植物オオアワダチソウの除去に対する河川敷植生の応答. 斎藤達也 (北大・院・環境)
- A07 円山川水系におけるカワラハハコ群落の20年間の動態～コアエリアはどこか～. 赤松弘治・浅見佳世 ((株)里と水辺研究所)・菅村定昌 (NPO 法人コウノトリ市民研究所)
- A08 カワラハハコ群落の維持機構の解明～大出水時のレフュージアの条件～. 浅見佳世 ((株)里と水辺研究所)
- A09 カワラハハコ群落の成立地で何が起きているか?～数値シミュレーションによる礫原近傍河川流の再現～. 中山昭彦 (神戸大)・浅見佳世 ((株)里と水辺研究所)
- A10 イトクズモ保全ビオトープの10年. 森定伸 ((株)ウエスコ)・榎本敬 (岡山大・植物研)・角野康郎 (神戸大・院・理学生物)・國井秀伸 (鳥根大・汽水研)・波田善夫 (岡山理大・生地)
- A11 水辺環境における希少1年草群落の生存戦略について. 村上雄秀 (国際生態学センター)・西川博章 ((株)ラーゴ)・勝山輝男 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
- A12 準絶滅危惧植物タコノアシの水田における個体群動態に及ぼす耕作と休耕の影響. 池田浩明 (農業環境技術研究所)
- A13 シュロの国内地理分布と温度要因. 亀井裕幸 (東京都北区役所)
- A14 男女群島の植生と植物相. 中西弘樹 (長崎大・教育・生物)
- A15 東北日本亜高山域の植生構造と植生地理. 沖津進 (千葉大・院・園芸学研究所)
- A16 マレーシアサラワク州の熱帯山地林におけるブナ科植物の垂直分布と植生 (予報). 原正利 (千葉中央博)・大久保達弘 (宇都宮大・農)・Rantai Jawa (Botanical Research Center, Sarawak Forestry Cooperation, Malaysia)・Paul Chai (ITTO Project, Sarawak Forest Dept., Sarawak, Malaysia)
- B01 秩父山地においてオノオレカンパ林が形成される立地環境. 小川滋之 (千葉大・院・園芸学研究所)
- B02 ヤマグルマの立地分布. 小澤有司 (千葉大・院・園芸学研究所)
- B03 栃木県佐野市における耕作放棄地植生の空間分布と発生要因～イノシシによる農業被害との関係～. 大橋春香・星野義延 (農工大)・桑原考史 (新潟大)・加藤恵理・大橋未紀・柏木優・弘重穰・村瀬香・香藤正恵 (農工大)・堀江玲子 (宇都宮大)・角田裕志・石井遥香・野場啓・小池伸介・福田恵・土屋俊幸・戸田浩人・梶光一 (農工大)
- B04 尼崎の森中央緑地における森づくりの現状と種多様性. 藤原千鶴 (兵庫県立大・院・環境人間)・田村和也・辻秀之 (里と水辺研究所)・服部保 (兵庫県立大・自然・環境研)
- B05 都市造成緑地の自然林化に関する考察～種組成と構造から見た現状と将来予測～. 近藤一樹 (東京農工大・院・農)・福嶋司 (東京農工大・農学研究院)・伴武彦 (東京農工大・院・連農)
- B06 樹木の防火力を活かした火災に強いまちづくりの提案. 小沢友里 (東京農工大・院・農)・福嶋司 (東京農工大・院・農学研究院)
- B07 海洋島における外来種リュウキュウマツの動態と生育環境. 飯島友 (千葉大・院・園芸)
- B08 ユーラシアステップ中央部における植物社会学的研究. 鈴木康平 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)・Abdissalam Jalaldin・Nurbay Abdusalik (新疆大)・Tsagaanbandi Tsendeekhuu (モンゴル国立大)・上條隆志・中村徹 (筑波大・院・生命環境科学研究科)
- B09 アトラス山脈東部に分布する *Quercus* 林の種組成. 川田清和 (筑波大)・杉山沙織 (筑波大)・Abderrazak SMAOUI (ボルジュセドリア・テクノパーク)・磯田博子 (筑波大)・中村徹 (筑波大)
- B10 琵琶湖のタブノキ林におけるカワウによる植生攪乱. 前迫ゆり (大阪産業大・院・人間環境学研究所)
- B11 シカの喫食によるススキ草原の種多様性への影響 - シカ高密度生息地域 兵庫県神戸市町砥峰高原の事例. 橋本佳延 (兵庫県博)・栃本大介 ((財)ひょうご環境創造協会)・黒田有寿茂 (兵庫県大)・田村和也・福井聡 (里と水辺研究所)
- B12 植生管理がチョウに与える影響. 渡邊祐喜・島野光司 (信州大・理)
- B13 岩手県大槌町の震災津波による塩害および二次災害で起こった森林の現状. 小林悟志 (国立極地研究所)・南佳孝 (国立情報学研究所)・島谷健一郎 (統計数理研究所)
- B14 伊勢湾台風の被害と回復・半世紀後の状況. 中西正 (愛知県立御津高校)
- B15 桜島溶岩地帯の植生遷移. 服部保 (兵庫県立大)・南山典子 (兵庫県立人と自然の博物館)・岩切康二 (岩切環境技研株式会社)・栃本大介 ((財)ひょうご環境創造協会)・福井聡 ((株)里と水辺研究所)・澤田佳宏 (兵庫県立大)
- B16 管理状況の異なる海岸砂丘における植生構造の比較. 永松大・清水美佳 (鳥取大・地域) (ポスター発表)
- P01 太平洋岸照葉樹林限界域における二次林の組成と構造について. 岩崎慶太 (国士舘大・院)
- P02 滋賀県近江八幡におけるナラ枯れがコナラ林の種組成と種多様性に与える影響. 塩谷智也・武田義明 (神戸大・院・人間発達環境学研究所)
- P03 温帯性木本ツルの生息地及び宿主の選択性. 西尾孝佳 (宇都宮大・雑草研セ)
- P04 六甲山地に残存する照葉樹林における維管束着生植物の分布と種多様性. 栃本大介 ((財)ひょうご環境創造協会)・服部保 (兵庫県大)・内田圭 (神戸大院)
- P05 伐採圧の違いが樹木動態に与える影響について～群馬県玉原高原ブナ林における追跡調査から～. 岡田彩 (東京農工大学農学府)・福嶋司 (東京農工大学農学研究院)
- P06 小河川において水生植物群落はどのような動態を示すか? 山ノ内崇志・石川慎吾 (高知大)
- P07 さいたま市荒川河川敷の河畔林における植生および春植物の分布の変化. 若山正隆 (東大・院・農)・古橋光弘・山口綾子・西ノ原章浩・関口春男・今井利和・中村純子 (浦和自然観察会)・大澤元・高橋絹世 (自然観察指導員埼玉)・高橋勝緒 (理研)・横尾亜子・久保雅春・猪越み

- さき (浦和自然観察会)・太田和夫 (元埼玉県立自然史博物館)
- P08 群馬県玉原湿原の種組成と群落分布の20年間の変化. 秋葉知律・福嶋司 (東京農工大学・院・農)・井上香世子・吉田青子 (玉原高原の自然を守り育てる会)
- P09 アカマツ二次林小面積伐採後初期におけるアカマツの成長と立地環境. 小館誓治 (兵庫県立人と自然の博物館/兵庫県立大・自然・環境科学研究所)・武田義明 (神戸大・院・人間発達環境学研究所)
- P10 大山ブナ二次林におけるチマキザサの稈の空間分布特性. 坂本圭児・原田実穂・廣部宗 (岡山大学)・山中典和 (鳥取大学)
- P11 種組成と地上部現存量によるモンゴル国西部草原の群落特性の評価. 山下綾香・川田清和 (筑波大・北アフリカ研究センター)・中村徹 (筑波大・院・生命環境科学研究所)・Tsagaanbandi Tsendeekhuu (National University of Mongolia)
- P12 農業活動により維持されている二次草地の評価と指標植物. 楠本良延・三上光一・山本勝利 (農業環境技術研究所)
- P13 日本におけるススキ属植物の生育立地について. 西脇重也・桑原翔太郎 (宮崎大・農)・茨木靖 (徳島県立博物館)
- P14 高知県物部川の砂礫堆における樹林化と立地環境の関連性. 古田観佳子・橋本恵・石川慎吾 (高知大学)
- P15 会津駒ヶ岳・田代山の山頂湿原の堆積物と湿原植生. 竹原明秀 (岩手大・人文社会)・木村勝彦・長橋良隆 (福島大・共生システム)・檜村利道 (福島市)
- P16 放棄ため池の水位変動と植生・生物相の関係. 舟木匡志 (兵庫県大)・澤田佳宏・山本聡・藤原道郎・大藪崇司 (兵庫県大・淡路景観園芸学校)
- P17 愛知県渥美半島堀切海岸における広葉樹海岸防災林の種組成および群落構造. 中島有美子・吉崎真司 (東京都市大・院・環境情報学研究所)
- P18 サロベツ海岸における地形と植生の関係. 鳥居太良・富士田裕子・藤村善安 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- P19 福島県湯ノ岳のスギ・ヒノキ人工林における間伐・未間伐区間の下層植生の比較. 中泉堯 (筑波大・生物資源学類)・上條隆志 (筑波大・院・生命環境科学研究所)
- P20 宮崎県南部の針葉樹人工林におけるクマガイソウの分布と物理環境および植生の関係. 安田整樹・平田令子・伊藤哲 (宮崎大)・川西基博 (鹿児島大)
- P21 紀伊半島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残. 寄元道徳・藤井弘明・長谷川孝・上西久哉・平井岳志・細見純嗣・中川智之・太田健一・松場輝信 (京都大・フィールド科学教育研究センター)
- P22 神戸女学院岡田山キャンパスにおけるクロガネモチの個体群生態的研究 - 雌雄性に着目して -. 野寄玲児・長田薫・川畑麻奈美 (神戸女学院大・人間科学)
- P23 絶滅危惧種ハマビシの生育環境. 楠瀬雄三 (高知県立牧野植物園/高知大・院・総合人間自然科学研究科)・村上健太郎 (名古屋産業大・環境情報ビジネス)・石川慎吾 (高知大・理)
- P24 東京湾岸におけるカワウのコロニー形成が植生に与える影響. 有馬智子・上條隆志 (筑波大)
- P25 伊豆諸島御蔵島におけるオオミズナギドリ営巣が森林植生へ与える影響. 林勇希 (大田区役所)・上野裕介 (新潟大・朱鷺・自然再生学研究センター)・上條隆志 (筑波大)
- P26 春日山照葉樹林における外来種の分布と立地環境との関係. 森田哲朗 (株式会社地域環境計画)・名波哲 (大阪市大・院・理)・神崎護 (京都大・院・熱農)・前迫ゆり (大阪産業大・院・人間環境)
- P27 淡路島の森林伐採跡地に分布する外来木本ナンキンハゼ群落の生態的特性と成因. 石田弘明 (兵庫県立大)・山名郁美 (大阪市立大)・小館誓治 (兵庫県立大)・服部保 (兵庫県立大)
- P28 多摩川におけるハリエンジュの開花結実特性に関する研究. 西熱甫江買買提 (東京農工大・院・連農)・星野義延 (東京農工大)
- P29 藁撒き工法におけるドナーサイト適地選定に関する研究. 星野義延 (東京農工大)・井関智裕 (東京植生研究会)・梶並純一郎 (地域自然情報ネットワーク)
- P30 RuLISWEB を活用した既存植生調査資料のデータベース化と情報共有. 三上光一・楠本良延・山本勝利 (農環研)
- P31 ICT を活用した生物多様性調査 - GPS 携帯電話を用いたタンポポ前線マップの作成 -. 渡邊幹男 (愛知教育大・生物)・畠山義彦 ((株)富士通・環境本部)・勝村有沙・則竹美帆・竹内花織 (愛知教育大・生物)
- P32 山梨県北杜市小淵沢町における植生景観と土地利用の関係. 西野文貴 (東京農大・院)・中村幸人・武生雅明 (東京農大)
- P33 日本海型ブナ林構成種6種の葉緑体DNAハプロタイプの地理的変異. 蛭間啓 (飯田市美術博物館)・佐伯いく代 (横浜国大・院・環境情報)
- P34 シカ影響アンケート調査 (2009-2010) 結果 - 会員が作る植生被害マップ -. 植生学会企画委員会